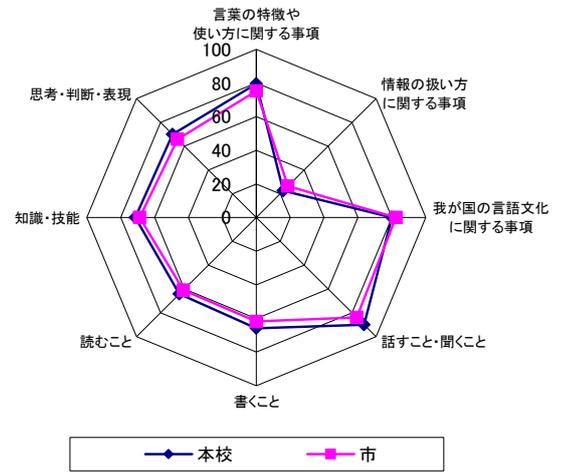


# 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	22.5	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	90.0	83.9	84.2
	書くこと	65.8	61.7	64.5
	読むこと	64.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	71.4	68.8	70.3
	思考・判断・表現	70.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

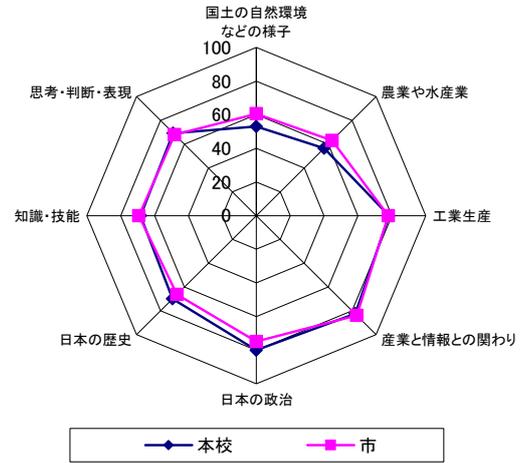
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より高く、4.2ポイント上回っている。</li> <li>○漢字の読みや敬語を理解し正しく使う設問では、市の平均正答率より高く、尊敬語・謙譲語共によく理解されている。</li> <li>○2段落構成で文章を書く設問では、市の平均正答率を24ポイント上回っている。段落の構成についてよく理解している。</li> <li>●送り仮名がある設問では、市の平均正答率を9.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○既習漢字に関しては家庭学習等で積極的に漢字練習に取り組ませたり、定期的な小テストを行ったりして、理解をより深めることができるようにする。</li> <li>●語彙力の育成として、読書や辞書の積極的な活用を行うようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より低く、4ポイント下回っている。</li> <li>●説明文の内容から「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書いている」の設問では、内容理解が不十分であったり、無回答である児童の割合が多かったりしており、内容の把握が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容から読み取ったことを書くことに関しては、社会科などの教科と関連を図り、言語化や読み取った情報を文章に書くことを繰り返し学習する場を設けるようにしていく。</li> <li>●意見文や投書、報告文など、相手や目的に応じた文章を書く機会を多く設け、効果的な表現方法を身に付けさせた上で、よりふさわしいものを選択できるように引き続き指導していく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より低く、2.4ポイント下回っている。</li> <li>●語句の由来の理解を深めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字の学習や既習漢字の復習の際に、漢字の読み方が和語なのか漢語なのかを繰り返し問い、理解を深めていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より高く、6.1ポイント上回っている。</li> <li>○聞いた話の内容を捉えたり、話の意図に応じた質問を考えたりすることができる問題では、市の平均正答率を16.1ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内放送・教師の話・グループ活動などで、普段から話の意図は問い返すことを教師が意識して引き続き続けていく。</li> <li>●話し合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかりと受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、内容の理解を図っていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より高く、4.1ポイント上回っている。</li> <li>○自分の意見とその理由を明確にする設問では、100%の児童が正答している。また、指示された事柄について指定された長さで書くことや段落の役割を理解して2段構成で文章を書く問題、予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●目的や意図に応じた書き表し方の工夫を問う設問では、市の平均正答率を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の振り返りや日記指導などをこれまで通り継続して行い、書式や段落に合わせた文章が書けるよう指導していく。</li> <li>●社会や総合的な学習の時間などのまとめなどで書いたものに関しては、互いに読み合う活動も取り入れ、より簡単で分かりやすいまとめの文章が工夫して書けるよう指導していく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市より高く、3.3ポイント上回っている。</li> <li>○物語文の登場人物の心情について、描写を基に捉えたり、説明文の叙述を基に内容を捉えたりする設問では、市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●説明文の文章全体の構成を捉える設問では、市の平均正答率を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明文の学習で、学習の最後で分かったことや筆者の願いなどを短い文章でまとめることや、調べ学習で分かった結論を短くまとめて話す機会を意図的に展開していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.0	60.5	65.8
	農業や水産業	56.7	63.3	66.0
	工業生産	78.3	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	82.5	83.8	76.6
	日本の政治	80.0	74.9	74.1
観点別	日本の歴史	70.0	66.3	68.3
	知識・技能	68.3	69.3	71.4
	思考・判断・表現	69.3	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

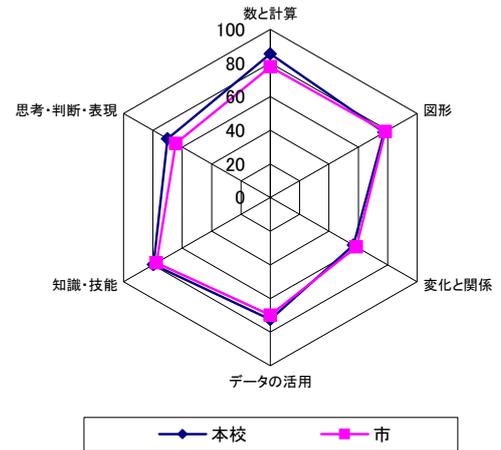
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を7ポイント以上下回っている。</li> <li>○「季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取っている。」の校内正答率は65.0%と、市の平均正答率を9.6ポイント上回っている。</li> <li>●「世界の国土に関する設問では、日本周辺の海洋名を問う問題における正答率が低い。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について取り扱うようにする。</li> <li>・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習の場を設けることで、知識の確実な定着を図る。</li> <li>・世界地図や日本周辺の国や様子が分かる掲示物を常時掲示し、折に触れて話題にするなど、学習内容が定着するような工夫をする。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を6ポイント以上下回っている。</li> <li>○「米の品質を高める工夫について理解している。」の校内正答率は90.0%と、市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。</li> <li>●「日本の主な食料の自給率について理解している。」の校内正答率は市の平均を20ポイント以上と大幅に下回る結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で伝える機会を多く設けていく。</li> <li>・授業の際に教科書や資料集を活用し、日本の食料自給率について触れるだけでなく、給食等でも食べ物の産地に目を向けさせ、実感を伴った理解ができるようにする。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率と同程度である。</li> <li>○「自動車の製造工程について理解している。」の正答率は、市の平均を9.8ポイント上回った。</li> <li>●「日本の輸出品・輸入品について理解している。」の正答率は市の平均正答率を16.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集を活用して、資料を正確に読み取る力を付けられるようにする。</li> <li>・日本の輸出入について特徴を捉えまとめる活動を取り入れ、知識の定着を図る。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率と同程度である。</li> <li>○「情報の発信と受信の注意点について考えている。」の校内正答率は95%と、市の平均正答率を上回った。</li> <li>●「産業における情報活用の現状について考えている。」の校内正答率は、市の平均正答率を4.8ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習を通して情報が社会の様々な場面で活用されていることを理解することに加え、どんな活用方法が考えられるか意見交換することで、情報を活用する力を伸ばしていけるようにする。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を5.1ポイント上回った。</li> <li>○「平和主義の基本的な考え方を理解している。」の正答率は100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民的分野の言葉は児童にとって聞き慣れないものも多いため、引き続き資料集や社会科教育番組を活用して、内容をより分かりやすく伝えられるようにしていく。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を3.7ポイント上回った。</li> <li>○歴史的分野の正答率は多くの項目で市の平均を上回る結果となった。特に「鎌倉幕府の政治について理解している。」の正答率は95%と、市の平均を20ポイント以上上回った。</li> <li>●「大和朝廷による統一について理解している。」の校内正答率は35%と、市の平均を30ポイント近く下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も踏まえ、歴史的事象を多面的に捉えられるよう資料提示や活動内容を工夫する。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	85.5	77.7	78.6
	図形	77.5	78.4	74.4
	変化と関係	56.7	58.7	53.0
	データの活用	72.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	79.6	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

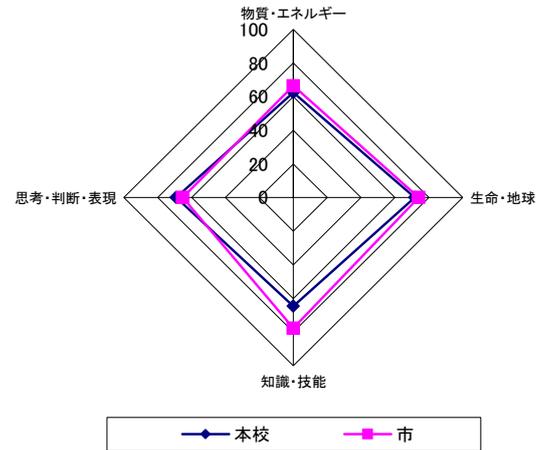
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を7.8ポイント上回っている。</li> <li>○「比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。」では、市の正答率を28ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・整数に限らず小数や分数でも数の関係を正しく把握できるように、図や数直線に表すなど、学習内容の理解を深めるような学習活動を引き続き積み重ねていくことで、既習事項のさらなる定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。</li> <li>○「合同な三角形を作図することができる。」では、校内正答率が100%であり、市の正答率を10.1ポイント上回った。</li> <li>●「半径が与えられた円の面積を求める式を理解している。」では10.7ポイント、「底面積と高さから角柱の体積を求めることができる。」では11.3ポイント市の正答率を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積や体積についての基礎的な知識については、全体的に課題が見られる。操作活動も取り入れながら、各図形の公式がなぜそのようなになっているのか根拠を確認し、練習問題に取り組みさせるようにする。</li> <li>・新たな図形の面積を求める学習では、既習の面積の求め方を復習する時間を設けることで定着を図る。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を2ポイント下回っている。</li> <li>○「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができる。」では、市の正答率を5.7ポイント上回った。</li> <li>●「割引後の値段を求める式を選ぶことができる。」では、市の正答率を6.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割引や増量についての問題では、答えが基準量より大きくなるか小さくなるかの予想をしてから立式する習慣づけを図る。</li> <li>・単位量当たりの大きさを求めて、2つの値を比較することについて課題が見られる。求めた値が意味しているものを理解することができるように数直線を活用したり、繰り返し問題に取り組む場を設けたりする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均正答率を2.6ポイント上回っている。</li> <li>○「ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する。」では、市の正答率を10.4ポイント上回った。</li> <li>●「円グラフから割合を読み取ることができる。」では、市の正答率を5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表値やヒストグラムなどを活用し、考えの根拠を明確にして答えの正当性について話し合う授業の展開を積み重ね、さらに理解を深める。</li> <li>・割合では、円グラフの読み取りに課題が見られる。算数の授業内だけでなく、社会など他の教科で円グラフが出てきた際にはグラフの見方を復習していくことで、定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.5	66.5	66.3
	生命・地球	71.7	74.0	72.6
観点別	知識・技能	64.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	69.1	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率を4ポイント下回っている。</li> <li>○「ふれはばを変えてもふりこの周期が変わらない。」についての設問の校内正答率は80%で、市の平均正答率を16.3ポイント上回った。</li> <li>●「メシリンダーで水を正しくはかりとることができ、正しい過の仕方が分かる。」についての設問の校内正答率は35%で、市の平均正答率を39.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実験器具の名称や正しい使い方について、準備や片付け、実験のときなどに繰り返し確認させ、知識の定着を図る。</li> <li>●実験結果からの気づきを自分の言葉でまとめさせたり、単元の最後に新聞づくりを取り入れるなどの工夫をしたりすることで、知識の定着を図る。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率を13ポイント下回っている。</li> <li>○「月の形から太陽がある方向と観察した時刻を指摘できる。」の設問の校内正答率は75%で、市の平均正答率を15.3ポイント上回った。</li> <li>●「くきを縦に切ったときの断面のようすを理解している。」についての設問の校内正答率は50%で、市の平均正答率を12.8ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習したことが実感を伴って理解できるよう、日常生活の中での事象と学習内容を結びつけるようなまとめやふりかえりの機会を作る。</li> <li>●植物のからだのつくりやはたらきについては、直接目にすることができないものが多いので、実験・観察の機会に実物で確認するだけでなく、図や動画を利用することで確実な定着を図る。</li> </ul>

## 宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	国語の知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率が、市の平均正答率を大きく上回った。算数の知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率が、市の平均正答率を大きく上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では、家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合は9割以上と、市の平均を大きく上回った。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・各教科における基礎基本の確実な定着を図るため、次年度も継続して朝の学習の時間を活用するなどして、複数体制による指導の充実を図っていく。また、授業内においても学んだ知識を活用して考える練習問題を意図的に設定したり、個に応じた補充学習ができるような授業展開にするなど児童一人一人にとって取り組みやすい学習の場を設定していく。

・基本的な問題だけでなく応用問題や記述問題などに取り組むとともに、自分の考えをまとめたり、思考過程を文字で記述したりする機会を確保し、様々な問題の形式に慣れることができるようにする。そのために、自分の考えを書くために必要な視点（順序・目的・構成など）を押さえて指導する。

・市の児童質問紙の結果から、「一日にどれくらい本を読んでいますか。」の問いに対する肯定割合は、学校のある日は高いが休みの日は低い結果となっている学年がほとんどであった。学校では、朝の「どっぷり読書タイム」やボランティアによる読み聞かせ、さらに1週間に一度は学級全員が図書室を利用して読書の時間を設けている。一方、家庭でも定期的に「家読」（ファミリー読書）を依頼してきたが、家庭における読書時間の個人差は大きい。今後も継続して、家庭との連携を図りながら、学校全体で読書の推進に努め習慣化を図りたい。

・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。